

事務事業名	こども館0123広場運営事業	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	01
担当部署	こども部	こども課	こども館	連絡先	71-1661	

政策番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高						
		基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市こども館・地区こども館による子供の居場所づくりの推進								
		実行計画	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市こども館・地区こども館による子供の居場所づくりの推進								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	こども館0123広場運営費				会計コード	01	款	03	項	02	目	05	事業	01
事務事業の概要	<p>・主に0歳から3歳までの親子の居場所として、人と人との交流拠点、また、子育て、子育て、子育ての場としての運営の拡充を図る。</p> <p>・親子が安心して集え相談できる場、子育てについて学習できる場として、子育て支援施設としての役割を果たしていく。</p>													
現状と背景	<p>・主に0歳から3歳までの親子の居場所として、人と人との交流拠点、また、子育て、子育て、子育ての場としての運営の拡充を図る。</p> <p>・親子が安心して集え相談できる場、子育てについて学習できる場として、子育て支援施設としての役割を果たしていく。</p>													
目的	受益者	・0歳～3歳を中心とした、就園前のお子さんとお子さんと子育て中の方												
	対象	・0歳～3歳を中心とした、就園前のお子さんとお子さんと子育て中の方												
	意図	・より多くの親子がこども館を利用することで、子育て家庭の育児不安の解消と育児支援を充実させる。												
手段・方法	<p>・利用者運営委員との連携を大切に、講座や行事等を開催して、子ども同士・親同士が遊び交流できる場、子育てについて学習する場にする。利用者の思いを引き出し、利用者運営委員会が活発に活動できるよう応援をする。</p> <p>・子育てに関する相談には何でも応じ、必要に応じては専門機関につなげる。</p> <p>・「子育て情報掲示板」や通信など、子育てに関する情報提供を充実させ、子育て・親育ちにつなげる。</p>													
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
	1	子育て講座・行事等の実施	子育て講座・行事開催回数	回	子育て講座・夏まつり・クリスマス会等の開催回数				20					
2	子育てに関する何でも相談	相談受付件数	件	年間延べ相談件数				400						
3														
変更履歴														
1	茅野市内の利用者の維持と増加	市内利用者延べ人数	人	(どんぐりプラン目標指標に掲載)				14,000						
2	レポート回数の増加	レポート回数	回	リピーター上位30人までの一年間の平均回数				75						
変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	10,875,820	31,402,479	10,491,000			
		国庫支出金	円	2,830,000	2,901,000	2,901,000			
		県支出金	円	2,830,000	2,901,000	2,901,000			
		地方債	円		4,400,000	0			
		その他特定財源	円	188,567	173,060	174,000			
	一般財源	円	5,027,253	21,027,419	4,515,000				
	活 動 指 標	子育て講座・行事開催回数	目標	回	20	20	8		
			実績	回	27	17			
		相談受付件数	目標	件	400	400	250		
			実績	件	381	153			
		-	目標	-	-	-	-	-	
			実績	-	-	-	-	-	
成 果 指 標	市内利用者延べ人数	目標	人	14,000	14,000	6,000			
		実績	人	11,682	9,290				
		達成率	%	83.44	66.36	-	-	-	
	レポート回数	目標	回	75	75	75			
		実績	回	101	91				
		達成率	%	134.67	121.33	-	-	-	
備 考									

事務事業名	こども館0123広場運営事業		事業期間	2001	～	年度	係内番号	01
担当部署	こども部	こども課	こども館			連絡先	71-1661	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		子育て講座や行事を充実させていることもあり、近隣の市町村の子育て支援施設が増加している中、利用者数を維持できている。増加させることを目標とするが、少子化という現状を踏まえ、目標値設定の妥当性について、検討をする必要がある。	相談件数は前年より減っているが、リピーター回数からも、安心、安全に遊ぶことができる場として利用してもらっている。感染症感染防止のため、年度末は来館者が減ったり、休館となったりし、中止になった行事もあるが、行事の見直しの機会としたい。		
価値（総合評価）	成果	知り合いの少ない若い親も気軽に集える場、親子の触れ合い・親と親のつながりを作る場、育児等の相談窓口として機能している。	0123広場を利用する母親のニーズは、子どもとの関わりの時間を十分に持ちたかったり、友だちが欲しいなど、様々である。親同士の交流もできるような講座や行事があることで、利用者が楽しみに来館できている。			
	課題	市民ニーズ、期待度ともに高い施設のため、利用者へのサービスは拡大していく必要がある。利用者運営委員と連携を取りながら、親育ち子育ての場となるよう子育て講座、イベントなど応援の在り方を検討し実施していくことが必要。	年度末から、感染症感染防止のための対策が必要となっている。対策を講じながら、安心して来館してもらえるよう、検討や工夫をしながら、こども館の役割を改めて再確認しながらできることを模索し、実施していく必要がある。			
改革	成果	拡充	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性（内容）	改善の方向性	来年度、床の改修工事及び照明のLED化工事を行い、環境を整え、利用者数の増加や施設の機能向上を図る。床の改修工事により、毎年コーキング等の補修を行うために要した経費の削減が期待できる。また、LED化により電気料及び蛍光管の購入に係る消耗品費の削減が期待できる。	利用者が求めている子育てに関する情報や、親自身の子育ての中での悩みや、負担に感じていることなどを把握し、行事の内容を精査する。感染症感染防止に努めながら、利用者が必要としている情報を提供できる方法を探る。また、子育て講座について、他施設で実施している類似の講座との集約について検討を進める。			
作成担当者	横内 佐季		横内 佐季			
最終評価責任者	五味健志		五味 留美子			
最終評価年月日	2019年5月17日		2020年7月3日			

事務事業名	こども館CHUKOらんどテノテノ運営事業	事業期間	2001 ~	年度	係内番号	02
担当部署	こども部	こども課	こども館		連絡先	75-1199

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱ID	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市こども館・地区こども館による子供の居場所づくりの推進		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市こども館・地区こども館による子供の居場所づくりの推進		

予算事業名	こども館CHUKOらんどテノテノ運営費	会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	07
-------	---------------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 ・茅野市こども・家庭応援計画（どんぐりプラン）に基づき、中高生及び相当年齢の若者が「安心して過ごせる場所」「夢や希望を叶えられる場所」の居場所作りとして設置した「CHUKOらんどテノテノ」の管理運営。
 ・イベントの企画や施設の利用方法などを検討するために利用者で組織された「こども運営委員会」の応援。
 ・中高生が施設内の利用だけでなく、地域のイベントへ参加するなど中高生が地域とつながる拠点となるよう支援する。

現状と背景
 ・茅野市地域創生総合戦略にもあるように、茅野市で生まれ育った子ども達が「将来は茅野市に帰ってきたい」と思ってもらえるような取り組みが求められている。そのためには、社会に出る一歩手前の中高生世代が地域の中で安心して過ごすことや、地域での活動するための拠点となるような居場所があることで郷土愛を育む必要がある。

目的
 対象者（誰のために）
 中学生・高校生及び同世代の若者
 中高生とつながりたい地域
 対象（直接働きかける）
 中学生・高校生及び同世代の若者
 中高生とつながりたい地域
 市内中学生・諏訪地域の高校
 意図（どんな状態にしたいか）
 家庭でも学校でもない居場所が地域にあることや、イベントへの参加を通じて地域とつながることにより、地元への愛着を育む。地域の中で自分達の居場所を自分達で作っていくことを通して、茅野市での充実感や達成感を得ることにより「将来の茅野市に帰ってきたい」と思ってもらえるようにする。

手段・方法
 ・安心して過ごすことのできる中高生の居場所提供
 ・利用者の代表によるこども運営委員会を設置し、中高生が主体的に運営をする。
 ・地域住民による大人によるサポート委員会を設置し、中高生によるこども運営委員会を応援する。
 ・居場所スタッフとしての研修を行い、中高生のニーズに応えられる応援体制を確立する。
 ・地域と中高生のつなぐ役割を担い、中高生地域がともに活動していく機会をつくっていく。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	こども運営委員会による自主企画事業の開催	自主企画事業開催回数	回	利用者の夢を叶える場としての活用
	2	地域社会への参画	地域活動参加回数	回	地域のイベントでの活動発表	6
	3	居場所スタッフ研修	スタッフ研修開催回数	回	中高生ニーズに応えられる応援体制づくり	12
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	利用者延べ人数の維持と増加	利用者延べ数の増	人	（どんぐりプラン目標指標に掲載）
	2	悩みを相談できる居場所	利用者相談件数	回	安心して過ごせる場所としての活用	240
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	10,269,516	5,600,866	9,887,000
財源内訳	国庫支出金	円	0	0	0		
	県支出金	円	0	0	0		
	地方債	円	0	0	0		
	その他特定財源	円	58,800	58,800	58,800		
	一般財源	円	10,210,716	5,542,066	9,828,200		
活動指標	自主企画事業開催回数	目標	回	6	6	6	
		実績	回	10	8		
	達成率	%	166.67	133.33	-	-	
	地域活動参加回数	目標	回	6	6	6	
		実績	回	8	4		
	達成率	%	133.33	66.67	-	-	
スタッフ研修開催回数	目標	回	12	12	12		
	実績	回	6	9			
達成率	%	50.00	75.00	-	-		
成果指標	利用者延べ数の増	目標	人	17,000	17,000	17,000	
		実績	人	13,909	9,015		
	達成率	%	81.82	53.03	-	-	
	利用者相談件数	目標	回	240	240	240	
実績		回	102	96			
達成率	%	42.50	40.00	-	-		
備考	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年3月2日から3月31日までの期間は休館						

事務事業名	こども館CHUKOらんどテクノ運営事業		事業期間	2001	～	年度	係内番号	02
担当部署	こども部	こども課	こども館			連絡先	75-1199	

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		・施設利用者が提案する自主企画事業、地域の行事への参加等を多く行い、世代間交流や地域交流することはできたが、そこから施設利用者増加にはいたらなかった。相談件数もそれに伴い目標値には届かなかった。	・6市町村内に同様の機能をもった施設が開館したため、利用者の延べ人数が減少した。利用者人数は減少したが、相談人数は昨年度と大きくは変わらないため、相談が必要な子ども達の居場所になっている。		
価値（総合評価課題）	成果	・施設利用者については、地域の行事への参加、自主企画事業の開催など、地域での居場所づくり、子ども達の自主性を育むことができた。	・施設利用者については、地域の行事への参加、自主企画事業の開催など、地域での居場所づくり、子ども達の自主性を育むことができ、子ども達が悩みを相談できる場となっている。			
	課題	・施設利用者増加のためにも、自主企画事業、地域の行事への参加の際に、施設の紹介、周知、市内中学校、諏訪郡内高校への施設紹介、周知を行う必要がある。	・施設利用者増加のためにも、自主企画事業、地域の行事への参加の際に、施設の紹介、周知、市内中学校、諏訪郡内高校への施設紹介、周知を行う必要がある。			
改革	成果	拡充	拡充			
	コスト	拡大	拡大			
改善の方向性（内容）	改善の方向性の内容	・施設利用者増加のため、市内中学校、諏訪郡内高校への施設の紹介及び周知が必要である。 ・施設開設後17年経過しているが施設内設備、備品が更新されておらず、不備のある設備、備品がでてきているため、計画的な設備、備品の更新が必要である。	・施設利用者増加のため、市内中学校、諏訪郡内高校への施設の紹介及び周知が必要である。 ・施設開設後17年経過しているが施設内設備、備品が更新されておらず、不備のある設備、備品がでてきているため、利用頻度の高い設備、もしくは緊急性のある設備から順番に改修を行っていく。			
作成担当者	丸茂 直樹	丸茂 直樹				
最終評価責任者	五味健志	五味 留美子				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				

事務事業名	学童クラブ運営事業	事業期間	～	年度	係内番号	22
担当部署	こども部	学校教育課	学務係	連絡先	607	

政策番号	02	基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
		基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0902	地域の特徴を生かした子どもの居場所づくり								
		実行計画	01	こども・家庭応援計画	0902	地域の特徴を生かした子どもの居場所づくり								
		項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称								
予 算 事 業 名	学童クラブ運営事業費				会計コード	01	款	10	項	05	目	03	事業	10
事務事業の概要	児童福祉法の規定に基づき、昼間保護者がいない児童に対して、家庭的な雰囲気の中で支援員による正しい生活支援により、児童の健全育成をはかる。月額4,100円、長期休業期においては1日600円の加算負担金を徴収している。平成28年度より小学校6年生までが利用対象児童となり、平成29年度から兄弟減免が導入された。入所児童は、25年418人、26年445人、27年405人、28年418人となり、やや減少傾向にあったが、29年492人、30年586人に増加している。													
現状と背景	経済状況の低迷による所得減少による共働き家庭や、近年の社会情勢による母（父）子家庭が増加していることにより、保護者の就労時間も長くなる傾向がみられ、児童だけで家庭で過ごす時間が増えており、保護者の心労が増している。													
目的	受益者	昼間保護者がいない家庭の児童および保護者												
	対象	同上												
	意図	多くの保護者が安心して会社に勤務できるように、安全で児童の健全育成が図れるような居場所を提供する。												
手段・方法	広報ちの及びホームページで事業内容の周知により募集する。 支援員の研修により資質の向上を図る。 家庭の教育力向上、相談対応をする。													
	（どうやって）													
評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値					
		1	学童クラブ入所児童の募集	市民への周知回数	回	保育園年長家庭・小学校1～5年生家庭に通知				1				
		2	学童クラブ入所児童の募集	入所家庭への周知回数	回	事業内容の周知				1				
	3	支援員の資質向上	研修回数	回	研修会の充実				10					
	変更履歴													
	成果指標	成果・効果は何？		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など				最終目標値				
1	入所希望児童の全員入所		入所率	%	入所者数／入所希望数×100				100					
2	支援員の研修		研修参加率	%	研修参加者数／指導員×100				100					
変更履歴														

実 施 状 況	財 源 内 訳	項 目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	69,313,152	90,411,393	88,533,000			
		国庫支出金	円	15,611,000	31,011,000	20,976,000			
		県支出金	円	15,611,000	21,638,000	20,976,000			
		地方債	円						
	活動指標	市民への周知回数	目標	回	1	1	1		
			実績	回	1	1			
			達成率	%	100.00	100.00	-	-	
	活動指標	入所家庭への周知回数	目標	回	1	1	1		
			実績	回	1	1			
			達成率	%	100.00	100.00	-	-	
	活動指標	研修回数	目標	回	10	10	2		
			実績	回	10	10			
			達成率	%	100.00	100.00	-	-	
成果指標	入所率	目標	%	100	100	100			
		実績	%	100					
		達成率	%	100.00	-	-	-		
	研修参加率	目標	%	100	100	100			
		実績	%	90	90				
		達成率	%	90.00	90.00	-	-		
備 考									

事務事業名	学童クラブ運営事業		事業期間	～	年度	係内番号	22
担当部署	こども部	学校教育課	学務係			連絡先	607

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		「茅野市学童クラブ条例」及び「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」で、学童クラブ利用対象児童を1から6年生としたことで、利用児童が増加している。大規模校(永明、宮川、玉川)は既に国の参酌基準を上回る状況であるため、2019年から部屋の増設をする。	今年度大規模校(永明、宮川、玉川)に合計4学童クラブを増設し、国の参酌基準に沿った運営を行うことができた。3月の小学校臨時休業期間中は全学童クラブで一日学童を実施し、学童クラブを必要とする家庭のニーズに応えることができた。		
価値	総合評価	学童クラブへの入所者数は増加傾向にあり、今後も共働き家庭は増加すると見込まれる。大規模校(永明、宮川、玉川)の空き教室増設を確保できた。	学童クラブへの入所者数は増加傾向にあり、今後も共働き家庭は増加すると見込まれる中、今年度4学童クラブを増設し余裕をもって運営することができた。3月の臨時休業期間中も応援を得ながら一日学童を継続実施することができた。			
	課題	「茅野市学童クラブ条例」及び「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の基準に見合う常勤支援員が不足している状況ため、早期の人材確保が必要。	「茅野市学童クラブ条例」及び「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」の基準に見合う常勤支援員が不足している状況ため、人材確保が必要。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	縮小	現状維持			
改善の方向性	改善の方向性の内容	今後も共働き家庭は増加すると見込まれ、入所希望者もこれに伴い増加すると思われる。大規模校(永明、宮川、玉川)は2019年から部屋の増設をするため、他学童クラブの別室等の検討が必要。また、部屋数が増え、常勤支援員の増員が必要である中、県主催の研修会への参加や、学童クラブ間の情報共有の場を提供する等、支援員の研修会の質をさらに向上させていきたい。	今後も共働き家庭は増加すると見込まれ、入所希望者も増加傾向が続くと考えられる。今年度4学童を増設したが、安定した運営を行うためにも支援員の増員が必要である。また、資格取得を含めた研修を充実させ、支援員の質の向上を図っていく。3月に学校が休校となった際、全ての学童クラブで一日開所し、家庭で過ごすことのできない児童を受け入れることができた。今後このような事態となった場合、家庭や市との連絡手段が電話のみであるため、PC環境の整備等検討が必要である。			
作成担当者	篠原 浩一	篠原 浩一				
最終評価責任者	五味 正	五味 正				
最終評価年月日	2019年5月21日	2020年7月3日				

事務事業名	地区子ども館運営事業	事業期間	2003 ~	年度	係内番号	01
担当部署	こども部	こども課	こども係		連絡先	612

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0103	地域が支える子育て環境の充実		
			基本計画②	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市子ども館・地区子ども館による子供の居場所づくりの推進		
			実行計画	01	こども・家庭応援計画	0901	茅野市子ども館・地区子ども館による子供の居場所づくりの推進		

予算事業名	地区子ども館運営費	会計コード	01	款	03	項	02	目	05	事業	02
-------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市内10地区10ヶ所に設置されている地区子ども館の管理及び運営。各地区子ども館の開館時間、開館日、企画等は地区子ども館運営委員会に委ねている。各館にはどんぐりメイト（臨時職員）が配置されており、子どもの居場所として、また地域住民との交流行事等が実施されている。

現状と背景
(どうして)
こども・家庭応援計画に基づき、第4層(市内10地区)において、主に幼児・学童期の居場所として、また活動を応援、課題解決をするための拠点として地区子ども館は設置された。

目的
対象
受益者
(誰のために)
地区の子どもとその家族。

対象
(直接働きかける)
地区子ども館運営委員、地域住民、どんぐりメイト（臨時職員）

意図
(どんな状態にしたいか)
子どもに安心して時間を過ごせる居場所の提供をしているので、さらなる利用者の増加を図る。子どもにイベント等の実施による異年齢や高齢者との交流機会を提供し、老若男女が集う地域のコミュニティ活動の拠点とする。

手段・方法
(どうやって)
地区子ども館運営委員会への運営費支援
メイト会議及び分室会議の開催

活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	情報だより等の発行	発行回数	回	各館の平均発行回数(概ね1ヶ月に1回)	12
2	地区子ども館での行事開催	行事開催回数	回	各館の平均発行回数(概ね1ヶ月に2回)	24
3	各館の情報交換	会議開催回数	回	メイト会議及び分室会議回数(概ね3ヶ月に1回)	4

成果指標	成果・効果は何?	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
1	利用者の増加	10館の平均利用者数の増	人	10館の1日平均利用者数(どんぐりプラン目標指標に掲載)	40
2	ボランティア協力者の増加	10館の協力者数	人	10館の年間延べ協力者数	800

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
財源内訳	事業費等(a)	円	22,290,179	22,543,350	24,364,000		
	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円					
	一般財源	円	22,290,179	22,543,350	24,364,000		
活動指標	発行回数	目標	回	12	12	12	
		実績	回	12	13		
		達成率	%	103.33	108.33	-	-
	行事開催回数	目標	回	24	24	24	
		実績	回	25	20		
		達成率	%	102.08	83.33	-	-
会議開催回数	目標	回	4	4	4		
	実績	回	5	5			
	達成率	%	125.00	125.00	-	-	
成果指標	10館の平均利用者数の増	目標	人	40	40	40	
		実績	人	38	42		
		達成率	%	95.00	104.25	-	-
	10館の協力者数	目標	人	800	800	800	
		実績	人	830	490		
		達成率	%	103.75	61.25	-	-

備考 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和2年3月1日から3月31日までの期間は休館

事務事業名	地区子ども館運営事業		事業期間	2003	～	年度	係内番号	01
担当部署	子ども部	子ども課	子ども係				連絡先	612

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成果） （要因分析）	情報だより等の発行や地区子ども館で行事を開催することによって、利用者の増加、またボランティア協力者の増加に繋がった。	情報だより等の発行や地区子ども館で行事を開催することによって、10館の平均利用者数の増加に繋がった。			
価値（CHECK）	成果	子どもの居場所、また異年齢や高齢者との交流機会を提供し老若男女が集う地域の子育て拠点としての機能を果たし、子ども・家庭応援計画に基づく「居場所づくりの推進」を担っている。	子どもの居場所の機能を果たし、子ども・家庭応援計画に基づく「居場所づくりの推進」を担っている。			
	総合評価 課題	概ね目標値に近づいているが、各地区子ども館の活動指標の実績に大きな差がある。各地区の現状に合わせた子どもの居場所として、また地域の子育て拠点としての活動を支援していくことが必要。	概ね目標値に近づいているが、各地区子ども館の活動指標の実績に大きな差がある。各地区の現状に合わせた子どもの居場所として、また地域の子育て拠点としての活動を支援していくことが必要。			
改革	成果	現状維持	現状維持			
	コスト	現状維持	現状維持			
改善の方向性（ACT）	内容及び容	地区子ども館が地域の子育て拠点に位置づけられているため、どんぐりメイト（臨時職員）が地域のさまざまなイベント等に携わるなど、業務が増加傾向にあるため、業務内容の精査が必要。 また、今年度から市図書館職員が分室周りを行うなど、分室と図書館との連携が密にできるようになってきているため、引き続き取組を実施する。	地区子ども館が地域の子育て拠点に位置づけられているため、どんぐりメイト（臨時職員）が地域のさまざまなイベント等に携わるなど業務が増加傾向にあるため、業務内容の精査が必要。 また、平日昼間、土曜日の運営方法は利用者は少なく、ニーズが少ないため、検討が必要。合わせて市内の放課後の居場所を一体で検討する必要がある。			
作成担当者	小林拓斗	小林拓斗				
最終評価責任者	五味健志	五味留美子				
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日				